

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

12236

博物館施設維持管理事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施策	3	文化財の保護・活用
取組方針	2	文化財の活用

事業区分(1)	事業経費		管理経費	○
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	文化スポーツ費		
	目	博物館費		
	大事業	博物館事業		
中事業	博物館施設維持管理事業			

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel 博物館 近藤 壮 423-0003
事業実施の根拠法令	博物館法・文化財保護法・和歌山市立博物館条例		関連課	

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	博物館の運営・維持管理を円滑に行う。		博物館法に基づき、博物館の運営・維持管理を行う事業。2次評価の方向性(計画どおり事業を進める)ことが妥当。			
事業内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	
	館等建物の適切な維持管理を実施し、施設の故障等による臨時閉館の事態を避けるとともに、コーナー展示の展示替え等魅力ある常設展示に努める。	館等建物の適切な維持管理を実施し、施設の故障等による臨時閉館の事態を避けるとともに、コーナー展示の展示替え等魅力ある常設展示に努める。	博物館の適正な運営・適切な維持管理を行う。「博物館基本計画」の策定に向けて取り組む。	博物館の適正な運営・適切な維持管理を行う。「博物館基本計画」の策定に向けて取り組む。	博物館の適正な運営・適切な維持管理を行う。「博物館基本計画」の策定に向けて取り組む。	

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	39,386	39,507	50,808	49,348	88,794	73,728	31,413	0	31,413	0
伸び率(%)	△5.5%	△4.7%	29%	24.9%	74.8%	49.4%	△64.6%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	11,048	11,287	11,326	8,136	1,119	4,956	6,554	0	6,554
	正規職員以外	7,504	6,620	6,168	700	1,886	3,699	2,873	0	2,873
	小計	18,552	17,907	17,494	8,836	3,005	8,655	9,427	0	9,427
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	1,100	0	1,100	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	39,700	34,400	0	0	0	0
その他	1,135	814	1,060	1,055	1,460	752	1,810	0	1,810	0
一般財源(税等)	38,251	38,693	49,748	48,293	47,634	38,576	28,503	0	28,503	0
所要人数(人)	正規職員	1.39	1.42	1.42	1.02	0.14	0.62	0.82	0.00	0.82
	正規職員以外	2.80	2.47	2.47	0.28	0.76	0.96	0.96	0.00	0.96
主な予算内訳	管理委託料 19,464千円 工事請負費 38,312千円 光熱水費 8,348千円 所々修繕料 464千円等									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
施設	施設の修繕箇所数	件	目標値	0	0	0	0	
			実績値	8	7	2		
			達成度(%)	0%	0%	0%	0%	
入館者数	人	目標値	12990	13245	14000	16000	18000	
		実績値	12372	13333	15479			
		達成度(%)	102.4%	111%	129%	0%	%	

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	当博物館は「博物館法」に基づく登録博物館、「文化財保護法」に基づく公開承認施設であり、その性質上様々な制約があるが、職員一丸となって施設の運営、および維持管理に取り組んでいる。昭和60年11月の開館以来、施設の改修やリニューアルは行っていなかったが、平成31年度には、念願の博物館の心臓部ともいえる空調機器の入れ替え改修工事を行うことができ、デマンド監視システムの導入により節電にも取り組んでいる。今後さらなる職員の努力により円滑な運営ができるように取り組んでいくが、館運営に最も重要である、重要文化財等をはじめとする歴史資料を運搬する貨物用エレベーターの修繕については、平成31年度は見送られたため、展覧会および資料の搬出入に大きな支障をきたしている。今後も計画的に施設の長寿命化を図っていく必要がある。
見直し・改善内容	平成30年度に空調機器の入れ替え改修を行うことができたが、他の設備が老朽化による劣化が進んでいる、常設展示室をはじめ個別の修繕ではなく大規模な改修を行ない適切な収蔵・展示環境を維持することが必要である。また、庶務をはじめ施設の維持管理の事務を処理する正規事務職員がいないため、柔軟な施設管理ができず、事務については停滞している。早急に正規事務職員を増員し、適正な人員体制を整えるべきである。